伝統芸能一堂に集結 登米市20周年記念絆祭り

「登米市絆祭り」(同実行委員会主催)が7月27、28の 両日、迫町佐沼地区で開かれました。

祭りは、登米市が令和7年4月1日に市制施行20周 年を迎えることから、本市のさらなる飛躍と市民主体 で一体感のあるまちづくりを進めて次の世代へつない でいきたいという願いを込めて開催。和太鼓の演奏や よさこいの演舞などのほか、登米秋祭りの山車、米川の 水かぶり、長谷観世音虎舞などの市内6団体による伝 統芸能パレードが催されました。28日には、登米市佐沼 夏祭りも開催され、みこしの行進や花火を見ようと、多 くの来場者でにぎわいました。



に、沿道からは大きな拍手と歓声が上がりました。

全国の熟練漕手集う

マスターズレガッタ開催

「第15回全日本マスターズレガッタ」(日本ローイン グ協会主催)は7月6、7の両日、アイエス総合ボート ランド(宮城県長沼ボート場)で開催され、全国から集 まった約700人の選手が熱戦を繰り広げました。

大会は、ボート競技を生涯スポーツとしてより多く の人に楽しんでもらうため、27歳以上の漕手を対象に 実施しており、宮城県会場での開催は今回が初。出場し た山田希生さん=栃木県下野市=は「コースが広くて 気持ちよくこぐことができた。シニア世代の出場者が たくさん参加しており、自分たちも同じように仲間と 長くボート競技を続けていきたい」と話していました。



ト場がデザインされた木製のメダルが贈呈されました。

災害時の飲料水供給 県内の事業者と応援協定

「災害時における飲料水供給に関する協定式 |が7月 30日、市役所で開かれました。

今回、市と協定を締結したのは、ウォーターネット仙 台(菅原康平代表取締役)、ガス&ライフ(菅原平勝代表 取締役社長)、藤丸工業(藤欠孝一代表取締役)の3社 で、地震など大規模災害の発生により飲料水が不足し た場合に、市の要請に応じて優先的に供給するものと なっています。菅原平勝社長は「災害時などに高品質の ミネラルウオーターを安定して供給できるように体制 を強化して、登米市の皆さんの健康と命を守り、防災力 の向上に協力していきたい」と話しました。



民の安全・安心の確保に向けて連携の強化を誓いました。

梅雨を彩る青紫の花

いしこしあじさいまつり

「登米市いしこしあじさいまつり」(同実行委員会主 催)は7月6日から15日までの期間中、チャチャワール ドいしこしで開かれ、多くの人でにぎわいました。

あじさいまつりの開催は17年ぶり。来場者は、園内に 咲き誇る色鮮やかなあじさいを鑑賞しながらスタンプ ラリーをしたり、イベントブースの金魚すくいやマル シェ、手作り雑貨のワークショップなど、さまざまな催 しを楽しんだりして、思い思いにまつりを満喫しまし た。同実行委員会の千田久勝さんは「今回の復活を機 に、これからも継続的に開催していきたいです」と意気 込みを語っていました。



かんでいてきれい。涼しくて気持ちいい」と感想を話しました。

高森ワールドカップ パークゴルフで健康増進

「高森ワールドカップパークゴルフ大会」(高森パー クゴルフ場を応援する友の会主催)は7月30日、高森パ ークゴルフ場で開かれ、市内外から167人が参加し、優 勝目指して競い合いました。

大会は、参加者同士が交流と親睦を深めながら健康 を増進することを目的に初の開催。女性の部で優勝し た佐々木博子さん= 石越町第9=は「同じグループの メンバーに応援してもらえたおかげで優勝することが できました。次回も楽しみながらプレーしたいです」と 笑顔を見せていました。男性の部では阿部誠さん=美 里町=が優勝に輝きました。



ボールを打つ軽快な音を響かせ、会話を楽しみながら爽やかな 汗を流していました。第2回大会は11月22日に開催予定です。

木に触れ楽しく学ぶ 親子で組手什棚作り体験

「登米の森ワークショップ親子木工教室」は7月21 日、石森ふれあいセンターで開催され、市内外からの児 童とその保護者39人が参加しました。

教室では、登米町森林組合の竹中雅治氏を講師に迎 え、木や森林の大切さについての講話と、市内産木材の 間伐材を用いた組立家具「組手件」を使った棚作りを体 験。参加した親子は、木材に施された溝と溝を慎重には め込み、棚を完成させました。石川果歩さん=中田町弥 勒寺北=は「工作が好きなのでとても楽しかったです。 押し込む時の力の加減が難しくて少しドキドキしまし た」と話していました。



くぎやねじを一切使用せずに、はめ込むだけで組み立てられる 組手什は、本棚や椅子などさまざまな形に組むことができます。